タイヤ空気圧監視システム

パルテックが取扱開始

半導体商社のPALTEK（パルテック、横浜市港北区）が、7月から自動車の安全運行に欠かせないタイヤ空気圧のモニタリングシステムの取り扱いを開始した。空気圧の低下は、タイヤ破裂の主因で、重大事故を未然に防ぐ観点からシステムの導入は世界的な流れになっている。主力の半導体事業が競争激化で伸び悩む中、事業領域を拡大する狙いがある。（大槻　和久）

半導体に代わる事業拡大狙う

パルテックは同月、空気圧モニタリングシステム大手のフランス・LDLテクノロジーと販売代理店契約を締結。当面は主に国内の物流、バス会社向けにシステムの拡販を目指す。

LDL社の提供するシステムは、ホイール（車輪）にタイヤの空気圧や温度を測定するセンサーを装着し、常時モニタリング。基準値を超えるとワイヤレス通信で運転者にディスプレー表示や警報で知らせる。タイヤの熱も監視し、火災防止にも役立つという。

空気圧の低下は、タイヤ破裂のほか、燃費の悪化や走行安定性の低下、制動距離の伸長といった悪影響を及ぼす。空気圧の低下に起因する事故をきっかけに、2007年に米国で販売する新車にモニタリングシステムの搭載が義務付けられ、欧州や韓国にも動きが広がった。国内でも義務化の検討が行われている。

タイヤ空気圧モニタリングシステムの取り扱い開始を説明するPALTEKの矢吹社長＝都内

パルテックの矢吹尚秀社長は「タイヤに起因する事故は多く、日本や中国などでも今後、モニタリングシステムの義務付けが予想される。LDL社のシステムは高品質で欧米を中心に数多くの導入実績があり、国内向けビジネスの拡大も期待できる」と話す。将来的には、あらゆるものがインターネットにつながるIoTを活用し、タイヤの使用や保管、交換頻度から物流時の温度管理まで、データを一元管理して提供する「総合ソリューション化」（矢吹社長）も視野に入れる。

同社の17年6月中間連結決算の売上高は、主力の半導体事業の減少で、前年同期比7％減の約160億円だった。為替変動で収益が左右される側面もあり、矢吹社長は「半導体関連の自社、受託製品開発に加え、ソリューションビジネスの新規開拓を進め、収益性を上げていく」と今後を見据える。

LDL社の田嶋幸三副社長は「当社の先進テクノロジーの最適化で物流業界の課題解決が可能と考えている。パルテックが日本市場のニーズに即してシステムの提供を進めてくれるものと期待している」とコメントした。

AOKI本社ビル増改築と耐震補強

18年11月、完成予定

紳士服大手のAOKIは8日から、業務拡大を見据え、横浜市都筑区の本社ビルの増改築と耐震補強工事を行う。2018年11月下旬に完成予定。本社ビル1～2階のAOKI横浜港北総本店は工事期間中も通常営業する。

本社ビルは5階建てで、3、4階を増床する。両フロアの延べ床面積は約1・5倍の約5300平方㍍となる予定。工事中は横浜市都筑区のAOKIホールディングス本社に仮移転する。（東　真一）

県内最低賃金26円上げ答申

神奈川地方審議会

神奈川地方最低賃金審議会（会長＝盛誠吾一橋大学名誉教授）は7日、2017年度の県内の最低賃金について、現行額より26円引

横浜信金

信託事業に本腰

相続など高齢化社会対応

高齢者の相続対策や生前贈与への関心が高まる中、横浜信用金庫は信託商品のラインアップ拡充を図っている。このほど、信託会社などと相次いで代理店契約を締結。「超高齢化社会を迎え需要拡大が予想される中、高齢者本人の資産保護と次世代への円滑な資産承継を支援したい」としている。

同信金は7月、信金中央金庫が発売する個人向け商品の契約代理業務を始めた。資産受取人となる家族をあらかじめ指定できる「しんきん相続信託　こころのバトン」（信託金額100万円以上3千万円以下）と、指定の家族への生前贈与を容易にする「しんきん暦年信託　こころのリボン」（同500万円以上）の2種類。

信託金額が3千万円以上の場合は、9月11日から代理店として売り出すFPG信託（東京都千代田区）の「財産保全信託」がカバーする。振り込め詐欺防止を目的に、100万円以上の支払いの際は代理人の同意が必要になるなどの仕組みで、同社との信託代理店契約は信金初という。

相続対策としてアパート建設の需要が続く中、家主の高齢化に対応した不動産信託商品の取り扱いも9月に開始。このほどスターツ信託（東京都中央区）と代理店契約を結んだ。一般居住者向け賃貸物件の管理を目的とする新商品などを扱い、「手間がかかる賃貸経営が不要となり、相続税対策にも効果がある」

背景には、少子高齢化がある。低金利で厳しい経営環境が続くが、手数料収入や、アパートローンなど本業の金利収入の増加が期待できる。また、富裕層らの需要を掘り起こし「顧客の子どもらとの接点を増やし、相続に伴う預金流出を防ぐ」（担当者）狙いも。

また同信金は昨年から家族信託の取り扱いを始め、23日には同信金とランドマーク税理士法人（横浜市西区）、三井ホームの3者で遺言・信託をテーマに無料セミナーも開催する。問い合わせは同信金業務推進部☎045（680）6920。（鈴木　美帆子）

京急

羽田から手ぶらで観光

訪日客向け案内所が荷物配送

京浜急行電鉄（東京都港区）は、羽田空港国際線ターミナル駅の訪日外国人客向け観光案内所「京急ツーリストインフォメーションセンター（TIC）」を10日にリニューアルオープンする。コンシェルジュを1人増やし常時4人以上の体制にし、新しく手荷物配送サービス「手ぶら観光サービス」を始める。

同サービスはヤマト運輸と連携し、手荷物をその日のうちに関東圏のホテルに配送する。料金はスーツケース1個で1304円。それ以外の荷物も受け付ける。駅構内や電車の混雑緩和を図る狙い。

また、新案内所では、外貨両替、横浜などで行われるMICEの案内などをするMICEサポート業務、宿泊・観光施設予約サービスも開始する。

京急TICを開設した2010年度の年間利用者は1万6千人だったが、16年度は24万3千人に。今後も訪日外国人客は拡大するとみられ、6月から拡張工事に入っていた。同社は「ワンストップサービス環境を整え、お客さまのスムーズな移動を手助けする」としている。（東　真一）

リニューアル後の京急TICのイメージ画像

横浜ベイホテル東急

夢と感動を提供　開業から20周年

横浜ベイホテル東急（横浜市西区）が7日、開業から20周年を迎えた。陣内一彦総支配人はサンタクロースに扮して宿泊客らを出迎え、感謝の気持ちを込め、ホテルオリジナルの犬のぬいぐるみを手渡した。

ホテルでは記念の特別宿泊プランやディナーなどを展開中。20日には改装した神殿でブライダルフェアを行う。陣内総支配人は「30

開業20周年を迎え、サンタクロース姿で宿泊客らを出迎えた横浜ベイホテル東急の陣内総支配人＝横浜市西区